



寝転びながら割り箸と墨汁だけで
大胆な人物画を描く人。

目、目、鼻、口...と呪文のように唱えながら
土の塊に無数の穴を開ける人。



粘土一粒一粒に粘着剤を塗りぬり、
「おまなこ」の顔を作る人。



JIZOLIBIDO

地蔵とリビドー

呪文、恋心、謎のハミング、解毒剤としてのアート？
不可解で奇妙、でもなぜかグッとくる。

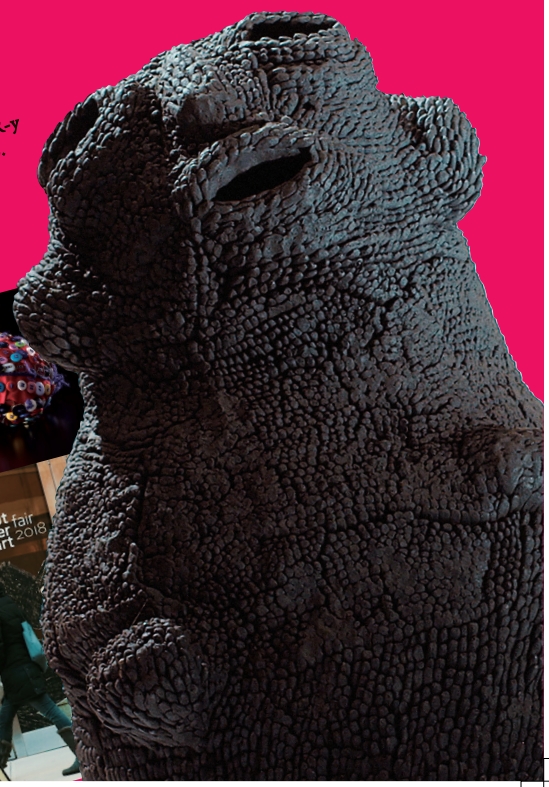
フィラデルフィア・アジア
アメリカン映画祭 2018
正式招待作品

【出演】
小出由紀子 (アートディレクター)
エドワード M. ゴメズ (DRAW VISION 編集局長)
向井秀徳 (ミュージシャン) ほか

監督：笠谷圭見
撮影：野田亮 (apartment film)
TRUCK FILM DESIGN
音楽：イガキアキコ
プロデュース：やまなみ工房 / PR-y
製作プロダクション：RISSI INC.
62min. / 日本語・英語字幕入り



www.jizolibido.com





フィラデルフィア・アジア
アメリカン映画祭2018 正式招待作品

自分の場合は「歌いたい」と同時に「評価されたい」って気持ちがあるけど、やまなみ工房の人たちは「作りたいから作る」ただそれだけ。

ミュージシャン・向井秀徳

よくぞこの密着を実現した、と拍手を送りたい。

映画ライター・よしひろまさみち

ラストシーンに映し出されるのは、この社会への批評である。

HUFFPOST

「メメハナクチ」「現実との区別

がつかなくなってきた」

「地蔵しか作らないんだって」

独創的なアート作品を生み出し続ける障害者施設「やまなみ工房」。いま彼らの作品はアメリカやヨーロッパのアート市場を中心に世界的な注目を集めている。工房に通所するのは知的障害や精神疾患を持つアーティストたちだ。彼らは実名で登場し、その日常が包み隠さず描かれている。

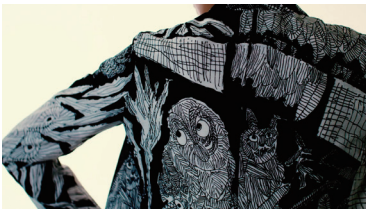
作品がいつ完成するのか、それは彼ら自身にもわからない。作品が誰にどう評価されるのか、彼らはまるで関心がない。ただ衝動のままに創作し続ける彼らの姿がそこにあるだけ。ひとつ事実として言えるのは、作品が彼らと他者との確かな結節点となっていることだ。アウトサイダーアートに造詣の深いジャーナリストや美術関係者へのインタビュー、障害を持つアーティスト自らが語る「精神状態と創作の関係性」など、彼らの切実な表現欲求の根源を探るドキュメンタリー。

SUPPORTED BY
日本 日本
映画 映画
DIVERSITY
IN THE ARTS



地蔵とリビドー
JIZOLIBIDO

www.jizolibido.com



JIZOLIBIDO
地蔵とリビドー

